埼玉県幹部を囲む意見交換会

第38回埼玉県産業振興懇談会（埼玉産業人クラブと日刊工業新聞社の共催）が11月4日、浦和ロイヤルパインズホテル（さいたま市浦和区）で開かれた。同懇談会では、埼玉県幹部と県内企業経営者らの意見交換会を実施。登壇した県幹部に対し、アサヒコミュニケーションズ会長の新井正敏氏、コスモテック専務の大橋翔氏、東立製作所会長の松川ヨシ子氏、日本経営士会埼玉支部長の小西洋三氏の4人が質問した。介護機器や樹脂加工、さらにIoT（モノのインターネット）などについて活発な意見交換が繰り広げられた。

稼ぐ力の取り組み

埼玉産業人クラブ会員から出た埼玉県への質問を、ご紹介します。2015年の国勢調査速報値によると、人口が減少に転じたようです。働き手不足が埼玉県経済に与える影響も大きいと思われますが、その対応策としてと田清司県知事のもと推進する「稼ぐ力」の取り組みについて現状や今後の展開をお聞かせ下さい。

立川吉朗・埼玉県産業労働部長　人口減少のことですが、埼玉県の人口は現在77万人で2025年には7万人になる見通しです。問題は生産年齢人口が451万人だが、それが435万人に減少し、かつ75歳以上の人口が現在の77万人から121万人になることが見込まれます。全国でも例を見ない高齢化が進むことが予想されています。埼玉県では、これを「2025年問題」として取り組んでいます。これは働き手が不足し、経済活力がなくなり、介護費が増大するなど悪い連鎖が想定されます。埼玉県では稼ぐ力の向上を培っていきます。そして人材の確保、「シニア革命」と三つの柱を進めて参ります。

まず一つ目の稼ぐ力の向上ですが、今年で3年目ですが先端産業プロジェクトを進めています。大学や研究機関にあるシーズと県内中小企業がもつ高い技術力を融合して新たな産業をおこします。それを埼玉県内に集積することで、埼玉県の全体の稼ぐ力を高める取り組みです。ナノカーボン、医療、ロボット、新エネルギー、航空宇宙の5分野を重点的に支援しています。いくつか種をまいてきたものが芽生えてきています。

今後は実際に事業化していくことが課題となります。その際に、金融機関をはじめ経済界の方々にご支援を頂くケースもあると思います。

もう一つの稼ぐ力の柱が先端産業プロジェクト部分だけでなく、幅広く生産性を向上させるための経営革新計画の推進です。昨年の新計画は7・66件で、これは2位の県をはるかに上回る全国一の数字です。今年度も1000件を目標に取り組み、活躍の場を確保していきます。これは埼玉県で年間問題に埼玉県として対応していくことです。生産年齢人口が減少し、高齢者が増えています。例えば65歳以上の8割以上が非常に健康です。上が働く意欲もあります。私自身が個人的に知っている方で、80歳になっても働いている方が何人もいらっしゃいます。60～70代でも同様に働く場所を確保していきたいと考えています。そのためにシニア活躍推進宣言企業を発掘するうえで、まず1000社を訪問し、活躍の場を確保していきます。これは埼玉県中小企業診断協会の協力を得ながら進めています。

また併せて就業支援センターの機能を拡充、それぞれ5年目に入りましたが、女性の働き方とともに、これからはそれを受けとめる男性の働き方にも目を向けて、各企業における男性の働き方にも多様性をもたせることを今後進めていきます。併せて幅広い産業人材の育成に努めていきます。

そして今年から取り組んでいるのは「シニア革命」です。生産年齢人口が減少し、高齢者が増えています。例えば65歳以上の8割以上が非常に健康です。上が働く意欲もあります。私自身が個人的に知っている方で、80歳になっても働いている方が何人もいらっしゃいます。60～70代でも同様に働く場所を確保していきたいと考えています。そのためにシニア活躍推進宣言企業を発掘するうえで、まず1000社を訪問し、活躍の場を確保していきます。これは埼玉県中小企業診断協会の協力を得ながら進めています。

また併せて就業支援センターの機能を拡充、それぞれ5年目に入りましたが、女性の働き方とともに、これからはそれを受けとめる男性の働き方にも目を向けて、各企業における男性の働き方にも多様性をもたせることを今後進めていきます。併せて幅広い産業人材の育成に努めていきます。

そして今年から取り組んでいるのは「シニア革命」です。生産年齢人口が減少し、高齢者が増えています。例えば65歳以上の8割以上が非常に健康です。上が働く意欲もあります。私自身が個人的に知っている方で、80歳になっても働いている方が何人もいらっしゃいます。60～70代でも同様に働く場所を確保していきたいと考えています。そのためにシニア活躍推進宣言企業を発掘するうえで、まず1000社を訪問し、活躍の場を確保していきます。これは埼玉県中小企業診断協会の協力を得ながら進めています。

アサヒコミュニケーションズ会長
新井 正敏 氏

アサヒコミュニケーションズ会長　新井正敏氏　県でされております。これも一層進めていきます。そして人材の確保では、女性の活躍を支援する「埼玉版ウーマノミクスプロジェクト」を紹介する窓口を県内に8箇所つくっています。さらにシルバー人材センターの職域を拡大するなど、いわゆる活躍できるシニア世代が就業できるような環境を一層進めていきます。また、働くばあいがシニアの活躍はありません。例えば地域デビューといってボランティア活動やNPO会副会長としての立場ます。官公庁では一般競争入札があります。価格競争も財政上の観点から当然必要なことでありますが、こうした法人ならびに個人の資格取得者や企業に対して入札や発注における加点要素を考慮して頂けますでしょうか。頑張っている中小企業を応援して頂きたく、お願い申し上げます。

企業の安定や収益拡大、それがひいては県や地方自治体の税収増や雇用創出につながると思われます。価格重視でなく、入札において生き残りをかけて、重視して頂きたい。

経営革新計画や子育て支援企業の承認、ISOなどの品質、環境改善、企業や個人が取得しようとしているさまざまな取得について、埼玉県の支援方針をお聞かせ下さい。

生き残り賭けた印刷業界

渡邉哲産業労働政策課長　入札における価格だけではなく、さまざまな取得ではありませんが社会貢献面で、障がい者の雇用で、法定雇用率を達成している事業者、それから授産施設を経営されている事業者、障がいをもった方々の福祉的就労を支援している事業者は社会貢献が顕著ということで、県からの仕事を願いしています。昨年入札を担当する部局から、社会的貢献企業者にも受注機会の確保を図るべく、できる限りの社会的貢献企業者を優先的に指名するよう配慮するという方針が出されています。ただ社会的貢献企業者というのは現段階では限定されています。国際標準化規格のISO14001、そのほか環境配慮に向けた取り組みをして認証を取得している企業、障がい者の法定雇用率2・0%以上の受注機会の確保といは、引き続き入札担当部局に伝えて、うち検討するように働きかけていきます。

新井会長　ありがとうございます。我々の組合としても、もうひとつ力を入れているのが印刷関連の資格を取得する会を立ち上げるなどして、多種多様の印刷関連資格をみんなで学び、1社でも力をつけ良い仕事をしていくことに全力をあげていきます。

渡邉氏

介護機器への支援策

コスモテック専務
大橋 翔 氏

コスモテック専務大橋翔氏　弊社は埼玉県入間市にあります産業用ロボット、単軸ロボット、単軸ロボットメーカーです。単軸ロボットを基本要素にした自動化、省力化機器を産業向けに作っており、この技術を用いて介護分野に向けた展示会に出ています。「マーラク」というイベントサイトの展示会に機器の開発をしています。3日間を通し13一つ介護支援機器であり、要介護者が自ら、ベッドからトイレ、ベットから車椅子へと移動できる機器です。先日ビッグサイトの展示会に100人を超える方に訪問してもらいました。大変なにぎわいで時代の背景といいますか、介護機器にはマーケットとして潜在性があると感じました。埼玉県は中小企業向けを中心に航空宇宙産業や医療分野、さまざま産業振興策を打ち出されています。こうした観点から県の介護機器に関する産業振興策についてお聞きしたいと思います。

先端産業課　高橋利男課長　お話の通り異次元ともいわれる超高齢化社会が進展し介護機器関係の分野は今後成長が見込まれる分野と認識しています。先端産業創造プロジェクトにおきまして、介護施設とロボットメーカーが共同してロボット機器全体の開発から事業化までを重点的に支援しております。新技術、新製品の開発に補助率10分の10、上限2000万円という補助制度を設けたほか、産学連携による支援を行っています。また介護機器を対象とした医療機器の試作品コンテスト展示会を開催し優秀作品には賞金を用意しも支援しております。介護ロボットは人材不足を補うことを期待されながら、導入への課題がある今後、導入への課題解決を目指すリハビリ介護ロボット研究会を今年立ち上げたところでございます。

高橋氏

コスモテック大橋専務　また当社は、幸いにも優秀な技術者の確保には成功しており、お客さまには厚い信頼を得ていると感じております。これまで、さまざまな自社製品を開発してきましたが、販売する力が十分ではありません。そうしたなか、中小企業の自社製品の販路開拓へと導く支援策、仕組みがございましたら、教えて頂ければと思います。

先端産業課　高橋課長　中小企業では良い製品を作っても販売のための人材、資金の不足に苦慮していると聞いております。そこでは販路開拓のサポートにも力を入れていきたいと考えております。大規模な展示会で県としてブースを確保して出展してもらうための補助を行っています。具体的にはブースの料金の3分の2を県が負担、また県内勤務やフレックスタイムなど多様な働き方を活躍を応援する気運づくりという三つです。そのなかで短時間業支援の拠点として埼玉県女性キャリアセンター、こちらはプリラ武蔵野に所在し、認制度を設けて実践している企業に対し、認証制度を設けておりまして、11月1日現在ですが2141社が7万7000人、就職が7700人を超えています。

東立製作所松川ヨシ子氏　当社でも女性がパートから社員、社員からリーダーになって活躍しています。パートの人が金額の縛りでなかなか思うように働けないということで、考えて頂けるということで良かったと思っております。

流会などのセミナーでプレゼンの場を設けています。自社の製品や技術を紹介してもらい、マッチングを図っています。

さらに県の産業振興公社が運営する先端産業支援センター埼玉では各分野にコーディネーターを配置させて頂く中29回開催しまして無料で受講できます。今後も展示会への出展支援などを拡充し、中小企業の優れた製品をアピールできる機会を広げ、販路開拓支援につなげていきたいと考えております。

東立製作所会長
松川 ヨシ子 氏

東立製作所会長松川ヨシ子氏　当社は彼岸花で有名な白高市で樹脂加工、機械加工をしております。創業57年目に入りました。医療機器が50%、食品機械が20%、その他では機械部品を加工しています。二つほどお願いしたいことがあります。一つは技能検定の材料についての質問です。当社は樹脂の機械加工としているますが、会社としての人材教育で多能工と技術向上を目的として技能検定試験資格取得を奨励しております。

金属加工の技能検定では、対象は金属のみとなっています。そのため、当社では金属の材料と治工具を仕入れて週末、検定に備える訓練などをしています。幸いなことに、今回、NC自動旋盤の2級を2名が合格できました。

樹脂の機械加工が徐々に広まって、すでに70年近くなりますが、常々何とか検定試験に樹脂加工を採用しても受検し、5000人近くが合格しています。従業員の技能を向上させるための目標として有効であり、若い技能者に目標を示し、合格することを目標にしていたのでいかがでしょうか。

産業人材育成課　吉田雄一課長　ただ今のご質問ですが、技能検定は働く人の技能を検定する国家検定で、全国で約70万人、本県でも昨年約7000人が受検し、5000人近くが合格しています。この税制の取り組みは国の問題ですが、地方としてはどの様に取り組んでいるのかお聞きしたいと考えております。

ウーマノミクス課吉田氏　この税制の取り組みは頂けると助かります。やすい策が県としてご提案いただければ、教えて頂けると助かります。弊社も女性がだいぶ増えてきました。もっと女性が働きやすい環境作りを推進しています。

吉田氏

日本経営士会埼玉支部長　小西洋三氏　の六次産業化プロデューサーという資格が

日本経営士会埼玉支部長
小西 洋三 氏

技を磨き、自信がついて定着につながるとともに、ステップアップに向けて、会社として取り組むことで会社全体の技術力向上にもつながります。県としてもできるだけ多くの人に受検してもらいたいば、具体的な検討が行いやすいと思います。

技能検定は厚生労働省が所管しており、現組んでいく必要があります。県として検討してもらいたいと思っています。

産業人材育成課　吉田課長　業界と力を合わせ取り組んでいく必要があります。県として検討してもらいたいと思っています。

東立製作所松川ヨシ子氏　樹脂業界で皆さんと力を合わせ、この定の取り組みを考えていきたいと思います。一番お願いしたいことは、パート社員の税制規制緩和の拡大についてです。先ほど労働人口が減少していく中で、女性の活躍を聞きましたが、そういう意味で女性の活躍促進に多いに取り組んで頂けたらと思っております。弊社も女性がだいぶ増えてきました。もっと女性が働きやすい策が県としてご提案いただければ、教えて頂けると助かります。

ウーマノミクス課　犬飼典久課長　県では平成24年度から女性の

福島氏

日本経営士会埼玉支部長　小西洋三氏　研究会ではIoTを導入したいという企業、システムベンダ

犬飼氏

力を経済の活性化につなげるという埼玉版のウーマノミクスプロジェクトを進めております。三つの柱立てがあります。女性の働きやすい環境作り、女性の就業・起業支援、そして活躍を応援する気運づくりです。

日本経営士会埼玉支部長　小西洋三氏　質問の二つ目は、食の6次産業化についてです。農水省から各市町村に6次産業化・地産地消推進協議会の設置をやってほしいという話があったと思いますが、県としてはどういう立場で考えて頂けるということで良かったと思っております。

日本経営士会埼玉支部長　小西洋三氏　の対象者の経営状況に応じた詳細やかな支援を実施するなど、適切な支援を行っていきたいと思っています。

日本経営士会埼玉支部長　小西洋三氏　また福祉関係のサービスを開発して売り込みたいというような話が経営士は販売の支援を依頼されています。

日本経営士会埼玉支部長　小西洋三氏　また併せて、生産性の向上、ステップアップ、そしてセカンドキャリアセンターを作り、第二の働くキャリアを紹介する窓口を県内に8箇所つくっています。さらにシルバー人材センターの職域を拡大するなど、いわゆる活躍できるシニア世代が就業できるような環境を一層進めていきます。また、働くばあいがシニアの活躍はあります。例えば地域デビューといってボランティア活動やNPO会副会長としての立場ます。官公庁では一般競争入札があります。価格競争も財政上の観点から当然必要なことでありますが、こうした法人ならびに個人の資格取得者や企業に対して入札や発注における加点要素を考慮して頂けますでしょうか。頑張っている中小企業を応援して頂きたく、お願い申し上げます。

企業の安定や収益拡大、それがひいては県や地方自治体の税収増や雇用創出につながると思われます。価格重視でなく、入札において生き残りをかけて、重視して頂きたい。

経営革新計画や子育て支援企業の承認、ISOなどの品質、環境改善、企業や個人が取得しようとしているさまざまな取得について、埼玉県の支援方針をお聞かせ下さい。

アサヒコミュニケーションズ会長
新井 正敏 氏

渡邉哲産業労働政策課長　入札における価格だけではなく、さまざまな取得ではありませんが社会貢献面で、障がい者の雇用で、法定雇用率を達成している事業者、それから授産施設を経営されている事業者、障がいをもった方々の福祉的就労を支援している事業者は社会貢献が顕著ということで、県からの仕事を願いしています。昨年入札を担当する部局から、社会的貢献企業者にも受注機会の確保を図るべく、できる限りの社会的貢献企業者を優先的に指名するよう配慮するという方針が出されています。ただ社会的貢献企業者というのは現段階では限定されています。国際標準化規格のISO14001、そのほか環境配慮に向けた取り組みをして認証を取得している企業、障がい者の法定雇用率2・0%以上の受注機会の確保といは、引き続き入札担当部局に伝えて、うち検討するように働きかけていきます。

新井会長　ありがとうございます。我々の組合としても、もうひとつ力を入れているのが印刷関連の資格を取得する会を立ち上げるなどして、多種多様の印刷関連資格をみんなで学び、1社でも力をつけ良い仕事をしていくことに全力をあげていきます。

渡邉氏

そのお菓子づくりを、もっと美味しく、新しく。　MASDAC
高い生産能力、使いやすく、優れた安全性　システムデポリー エボリューションII
過熱蒸気で品質向上・生産性アップ・省エネ効果　トンネルオーブン
セイロ蒸しの再現　ファインアップ スチーマー
選べる充実のラインナップ　どら焼機

洗浄不良ゼロの実績　現場の改善から生まれた洗浄機
風神くん

地域発展のエネルギー　90th